

令和2年（2020年）の福徳岡ノ場の火山活動

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁によるこれまでの観測によると、福徳岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されています。

○ 噴火警報・予報の状況、2020年の発表履歴

2020年中変更なし	噴火警報（周辺海域警戒） 火山現象に関する海上警報（周辺海域警戒）
------------	--------------------------------------

○ 2020年の活動概況

2月、3月、4月及び6月に海上保安庁が上空からの観測を実施しました。2月、3月及び4月には福徳岡ノ場付近の海面で火山活動によるとみられる変色水域が分布していました（図2）。6月には変色域は認められませんでした。海上保安庁、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁によるこれまでの観測によると、福徳岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されています（図3）。2010年2月3日には小規模な海底噴火が発生しています。

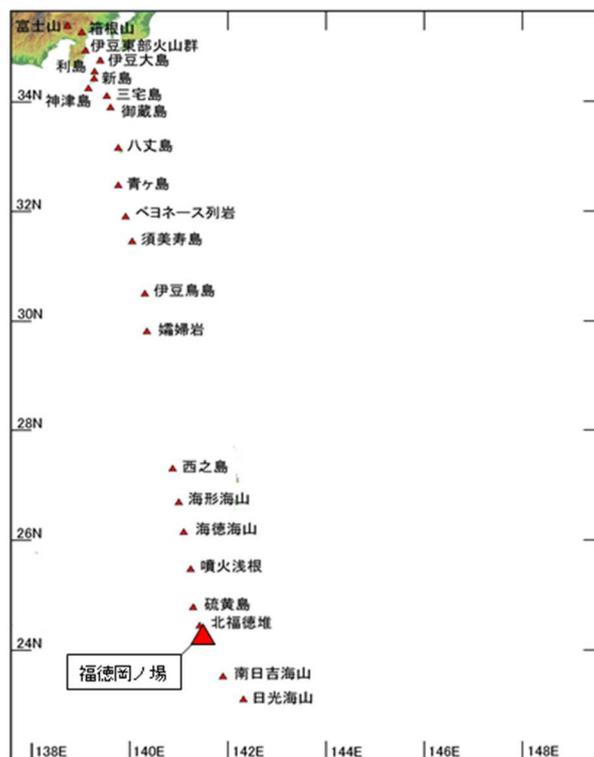


図1 福徳岡ノ場 伊豆・小笠原諸島の活火山分布と福徳岡ノ場
地図は、日本活火山総覧（第4版）から引用。

この資料は気象庁ホームページ (https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php) でも閲覧することができます。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は、海上保安庁のデータを利用して作成しています。



図2 福徳岡ノ場 海上保安庁が実施した上空からの観測結果（2月4日）

- ・白っぽい黄緑色の変色水が斑点状に湧出しており、途中から扇形に変化して西方向に約 6,300mに渡り薄い黄緑色の変色水が分布していました。

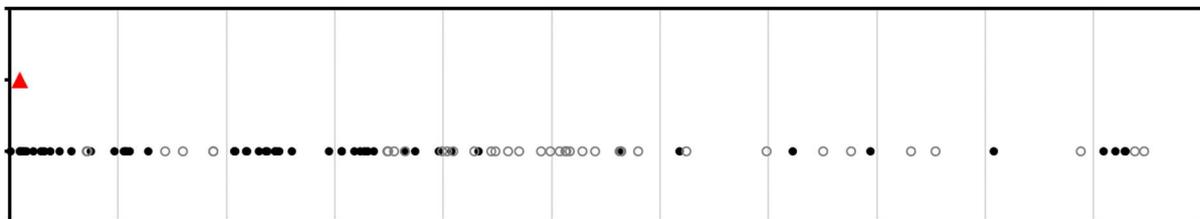


図3 福徳岡ノ場 2010年以降の活動状況

シンボルがあるタイミングで観測が行われています。●は海水変色が認められた観測、○は海水変色が認められなかった観測、▲は噴火が認められた観測を示します。

- ・2005年の噴火以降もたびたび海水変色が認められる状況が続く中、2010年2月3日に小規模な海底噴火、浮遊物、変色水が認められました。その後も断続的に海水変色が認められています。